

# 松山収容所のポーランド人捕虜問題

100781185 小山内義貴

---

# 1.ポーランド人捕虜の特殊性

(a)捕虜に対して平等の接遇

→ 当時の日本では当然の思考

(b)ポーランド人に対しては特別



特別な収容所の設置、政治的支援など

## 2.ヨーロッパにおける日波交渉

### (1)日露戦争時の日波関係

1940年2月:日本大使館を

ストックホルムに開設

明石元二郎:スウェーデン公使館付

として駐在

→ロシアに近いところで

敵の情報収集の為

敵の情報収集

自力では不可能



ロマン・ドフモスキを紹介  
→波瀾国民同盟の指導者



フィンランドもポーランドに同調



## (2)ポーランド社会党

(a)ロシアの圧政から祖国の解放が目的

国民同盟：民族統一の達成が目的

社会党：社会主義的要素の  
急進的な路線の探求

## (b) 社会党の4つの提案

(i) 亡命ポーランド人部隊の編成

(ii) ポーランド兵へ反ロシア的冊子の配布

(iii) ポーランド兵の日本軍への投降

(iv) シベリア鉄道破壊

→ポーランド人の戦場への出動拒否の為

その他；ポーランド人の通訳の必要性など

## (C)社会党の真の狙い

表面上；捕虜問題の関与を準備

実際；日本から資金援助の引き出し

→ポーランドの武装蜂起の為



ユーゼフ・ピウスツキの来日が決定

→日本側が資金援助に前向きの為

### 3. 日本でのドモフスキとピウスツキ

#### (a) ドモフスキ

##### (i) 鴨緑江の戦い(5月1日)

捕虜中のポーランド人は60人程度

→ポーランド人投降者の人数把握の為



投降喚起の為のパンフレット作成



(ii) **ダグラスを訪問**

**日本政府の声明文の草案作成**

**→ポーランド兵に投降喚起の為**



**ドモフスキは投降計画に精力的**

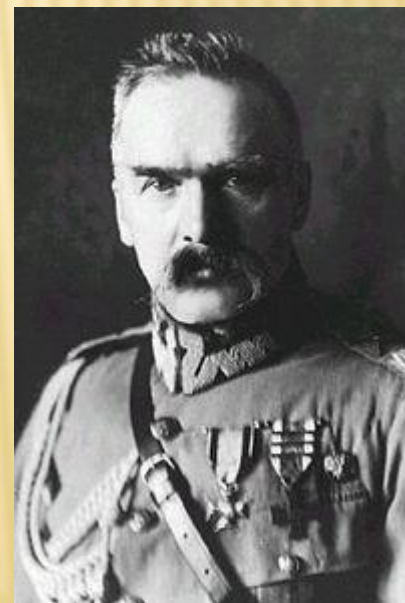
## (B)ピウスツキ

ドモフスキと部屋で会談

→武装蜂起の討論→意見は平行線



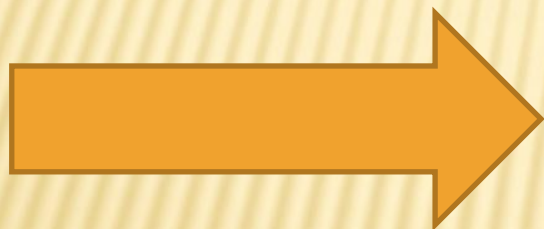
二人共、別個に日本政府へ  
意見を提出



## (C)結果

---

参謀本部；武装蜂起の資金を  
社会党に不提供  
→ドモフスキの主張



ピウスツキは日本を撤退

## 4.松山のポーランド人捕虜

(a)カトリック教徒とユダヤ教徒收容の  
捕虜收容施設を訪問(ダグラス)

→一人一人面接を実行



## (B)面接内容

姓名、出身地、所属部隊とその所在地  
ロシア軍での服役年限、識字力  
捕虜となった日時、場所など、



ポーランド・ユダヤ人共に脱走兵を確認

## **(C)脱走の原因**

---

**(i)収容所の庭の敷地**

→リラックス不可能

**(ii)仕事の有無**

→本国では相応の職業に就職の為

**(iii)周囲の散歩の機会の有無**

**(iv)石鹼と下着の有無**

## **(D)ダグラスの面接の目的**

**(i)捕虜の実態調査**

**(ii)ポーランド人捕虜への良好な待遇の維持**

**→問題点の改善**

**(iii)面接内容は日本側の報告書に不記述**

**→社会党の宣伝の為**

## 5.ポーランド人捕虜問題の結末

(i)ポーランド人が何人も収容所から脱出

(ii)通関手続きなしで出国

→日本政府が陰で亡命を黙認



日本のポーランド人捕虜への  
対応が非常に好意的



おわり